

CLUB NEWS

vol.
1248

2020-2021
MEETING

2020-2021年度国際ロータリーテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ

新たな試練を機会に、ロータリアンとして創造力と柔軟性で乗り越えよう!

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------------|
| ■ 会長 小林 敏 郎 | ■ 職業奉仕 佐竹 純 一 | ■ 副 幹 事 佐藤 太 |
| ■ 会長エレクト 長橋 正 人 | ■ 社会奉仕 小泉 俊 哉 | ■ 会 計 深瀬 隆 志 |
| ■ 副 会 長 石山 徳 昭 | ■ 青少年奉仕 相川 博 昭 | ■ S A A 川合 勝 芳 |
| ■ 直前会長 伊藤 和 子 | ■ 国際奉仕 中川 清 美 | 国際ロータリー会長 ホルガー・クナウ(ドイ ツ) |
| ■ クラブ管理運営 長谷川 淳 | ■ 幹 事 玉ノ井 憲 史 | 第2800地区カバナー 齋藤 榮助(米沢中央) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 北門 一忠(上山) |



ロータリーは機会の扉を開く



◆日時/2021.1.26 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/我らの生業

会長挨拶



みなさん、こんにちは。今週もゲスト卓話ではなく、職業奉仕委員会担当ということで鹿野淳一さんに会員卓話をお願いしております。どうかよろしくをお願いします。

先週、台北永楽RCさんからEメールが届きました。日本のコロナ感染状況を大変心配していただき、御見舞の言葉を頂戴しました。未だ医療関係者がコロナと懸命に戦っている中、一方で、コロナ禍で広がる貧困の報道を見るにつけ、心が痛む気持ちでいっぱいになります。

コロナ禍の影響を受けて世帯の収入が大きく減った場合、特に大学生は、自分のアルバイトなどの収入も減り自力での就学が困難になるケースが多いといえます。生活そのものが困窮している場合は、ボランティア団体による食料支援などにより、何とか急場をしのぐこともできるのかもしれませんが、入学金や授業料といったまとまった金額となるとそうはいきません。

そこで、「学生の支援制度」を調べてみました。例えば、日

本学生支援機構では、経済的理由で大学・専門学校への進学をあきらめないよう、2020年4月から進学・進級する学生に対して、給付型奨学金の対象者を広げております。それは、世帯収入の基準を満たしていれば、成績だけで判断せず、「学ぶ意欲」があれば支援を受けることができるそうです。また、給付型奨学金の対象となれば、授業料・入学金も免除又は減額されたり、貸与型奨学金を併用して借りることもできるそうです。このように、コロナ禍への対応がきめ細かな制度にも現れていることを知りました。

しかし、借りたものは返さなければならず、就職後もこの奨学金返済に苦しんでいる方も多くいると聞きます。その一方で、優秀な人材が就学を諦める、あるいは目指したい職業を諦める現実に、企業が奨学金の支払いを肩代わりするなどの支援策を積極的に実施していることも知りました。自社の若い社員が年々増える中、さまざまな境遇を持つ者も増えてきており、もう少し実施事例を調べ、自社内での支援を模索してみたいと思ったところでした。

今日もどうかよろしくをお願いします。ご清聴ありがとうございました。



鹿野淳一／父の葬儀の際には大変にお世話になりました。ありがとうございました。

小林敏郎／本日も多くの皆様にご出席いただき、ありがとうございました。また鹿野さん、卓話ありがとうございました。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	38名	—	24名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



会員卓話

職業奉仕委員会

鹿野 淳一 会員

職業奉仕について



<ガバナー月信より>

月信編集委員 鈴木 政昭

(米沢ロータリークラブ)

20世紀初頭にロータリーが創設されたとき、その職業奉仕部門を通じて職業倫理規範を主唱したことは、注目に値するものと考えます。

就業規則や取引公正の原則を定めた法律がなかった当時、従業員や雇員の弱みにつけ込む事業経営者が多くいました。ロータリーの職業奉仕部門は、会員自身の私生活は勿論のこと職業上の生活においても高度な指導的役割を果たしたのです。

適正な利潤を得て、事業所がよくなることで、取引関係も抑止、顧客にも満足を与え、地域に貢献することが出来ます。

ロータリーでの職業とは、やはり、“Vocation”で表現されているように神様からあたえられた天職の意味でもあります。

ロータリアンは、職業において、自己の利益のみの追求に専念することなく、ロータリアンでない人々とも、それぞれの職業を尊重しながらその職業を通して社会に貢献し、社会の発展に寄与することが求められていると理解しています。

例会では多くのロータリアンに会うことができますが、これは、ロータリーの職業分類制度のおかげで、自然に異業種の方々との交流が広がります。

しかも、ロータリーの目的が、「各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること」をうたっているのが尚更です。そして、職業奉仕を実践するロータリアンの立場から、常に課題の解決に対する注意を喚起することが要求されるものと考えられます。

そして、経営判断については、大所高所から複眼的に多くの事項を考慮に入れ、時には将来的な計測判断も要するが、判断の裏には過去に発生した細部の事情の集積を求められることがあると同時に、社外取締役でもって、一步退いて見つめ直すことも肝要であると考えます。これらの判断についての動機付けは、ロータリアン同士の接触から、自ずと生まれるものと理解されます。

取引を始めるにあたって、同じ様に、過去の事象をしっかりと照顧するとともに、当該取引を第三者の目で見詰め直したり見返すことも必要であると考えます。

社会において発生する事象は千差万別で、法律による形式的な当てはめだけでは落ち着きが悪いとか、結果をみるとスジが通らないという事態が必ず起こるものであり、また、取引においても、経営判断においても、正義や公平の視点から見ることによって、歪んだ結果を招くことを防止することができるし、社内外における人とのやりとり、各種交渉組織の運営、不祥事発生後の対応など、その相手方、事態に対して、なんら予断なく、白紙の状態向きあうということである、と理解し、職業奉仕を実践することに誠心誠意努めて努力したいと考えているところでもあります。

そして、職場が、今後コロナ禍で大革新を遂げることを考えれば、今日のロータリーにおける職業奉仕の役割は、これまで以上に重大なものになってくると考えます。